

取扱説明書

自走式芝刈機

GR638



0267-76000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
- 本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

株式会社 オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《各部の名称》	6
《各部のはたらき》	7
《方向について…》	9
《上手な運転のしかた》	9
運転前の始業点検 ----- 9	走行・旋回・変速・停止のしかた ----- 12
エンジン始動・停止のしかた----- 9	トラックへの積み降ろしのしかた ----- 14
《上手な作業のしかた》	15
草刈作業のしかた ----- 15	傾斜地での作業のしかた ----- 16
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	17
ミッションオイルの点検・補給・交換 --- 17	ナイフギアボックスグリスの交換 ----- 18
エンジンオイルの点検・補給・交換 ----- 18	可動部への注油のしかた ----- 19
《各部の点検・整備・調整のしかた》	19
タイヤ空気圧の調整のしかた ----- 19	エアクリーナの清掃のしかた ----- 20
燃料パイプの点検のしかた ----- 20	燃料フィルタポットの清掃のしかた ----- 21
点火プラグの点検・調整のしかた ----- 21	
《そのほかの点検》	21
各部ワイヤ・ベルト調整のしかた----- 21	
《ナイフの点検・交換のしかた》	24
ナイフの点検・交換 ----- 24	
《長期保管のしかた》	25
《仕 様》	27
《工具袋・同梱品明細》	28
《定期自主点検表》	29
《自己診断表》	30
《エンジンの不調とその処理方法》	31

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。



警告

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

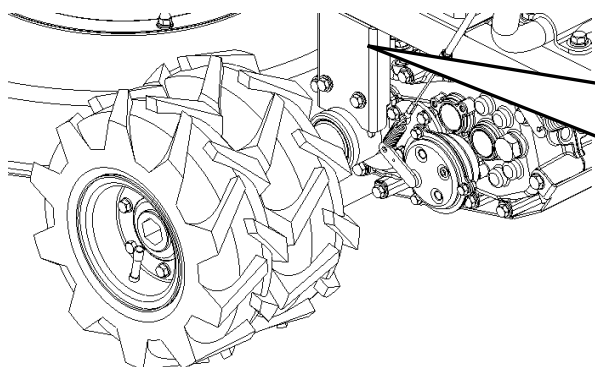
- 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
- 本書の内容の一部又は全部を無断で複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意ください。
- 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は農業用機械として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。又、地を這うように伸びるツタ、ツル等の草については刈取れない場合もあります。

《保証・契約書・免責事項》

- 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
- 本製品の保証期間は、新品購入から **1 年**、又は **50 使用時間** (請負業務用については **6 ヶ月間**、もしくは **50 使用時間**) の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
- 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
- 製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある 定期的な点検・整備を必ず最低毎年 1 回は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)]を併せてご連絡下さい。






種類 Description	芝刈機(歩行型)
型式名 Model	GR638
製造番号 Serial No.	LD00000000
発売元	株式会社オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD.	MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後 9 年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

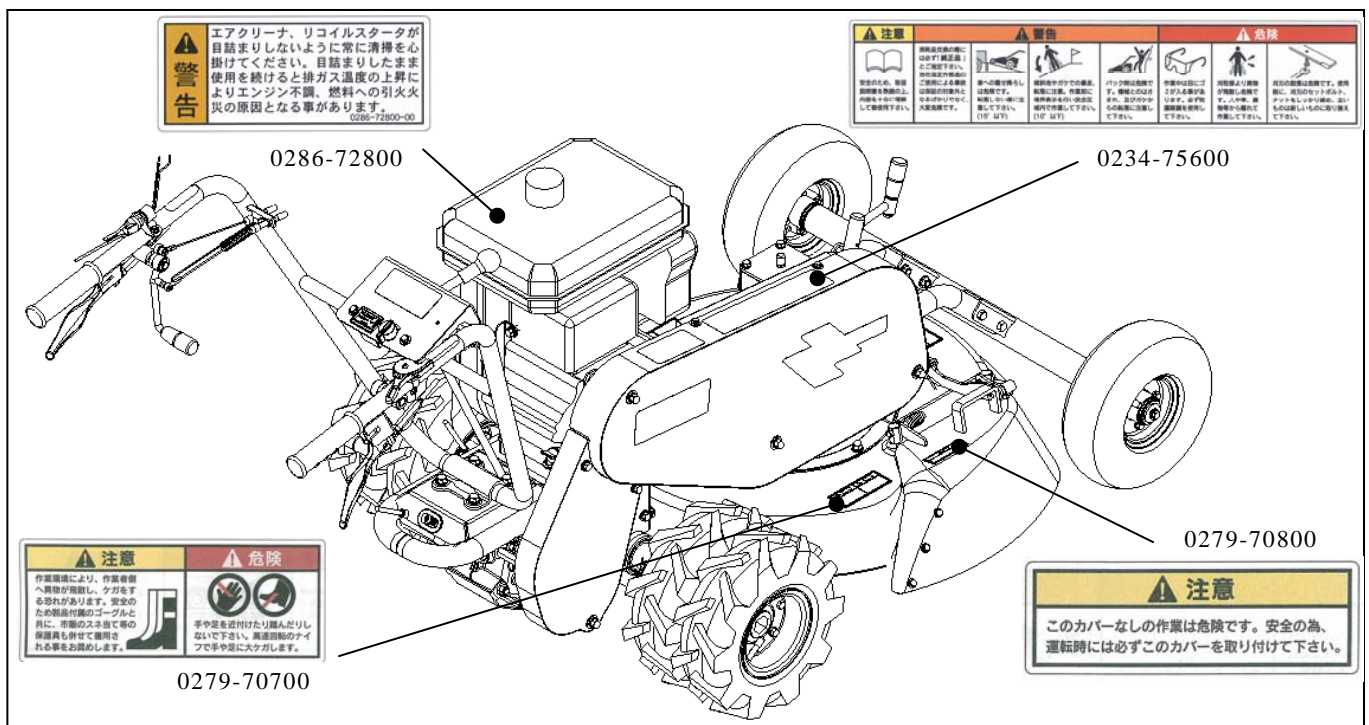
本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

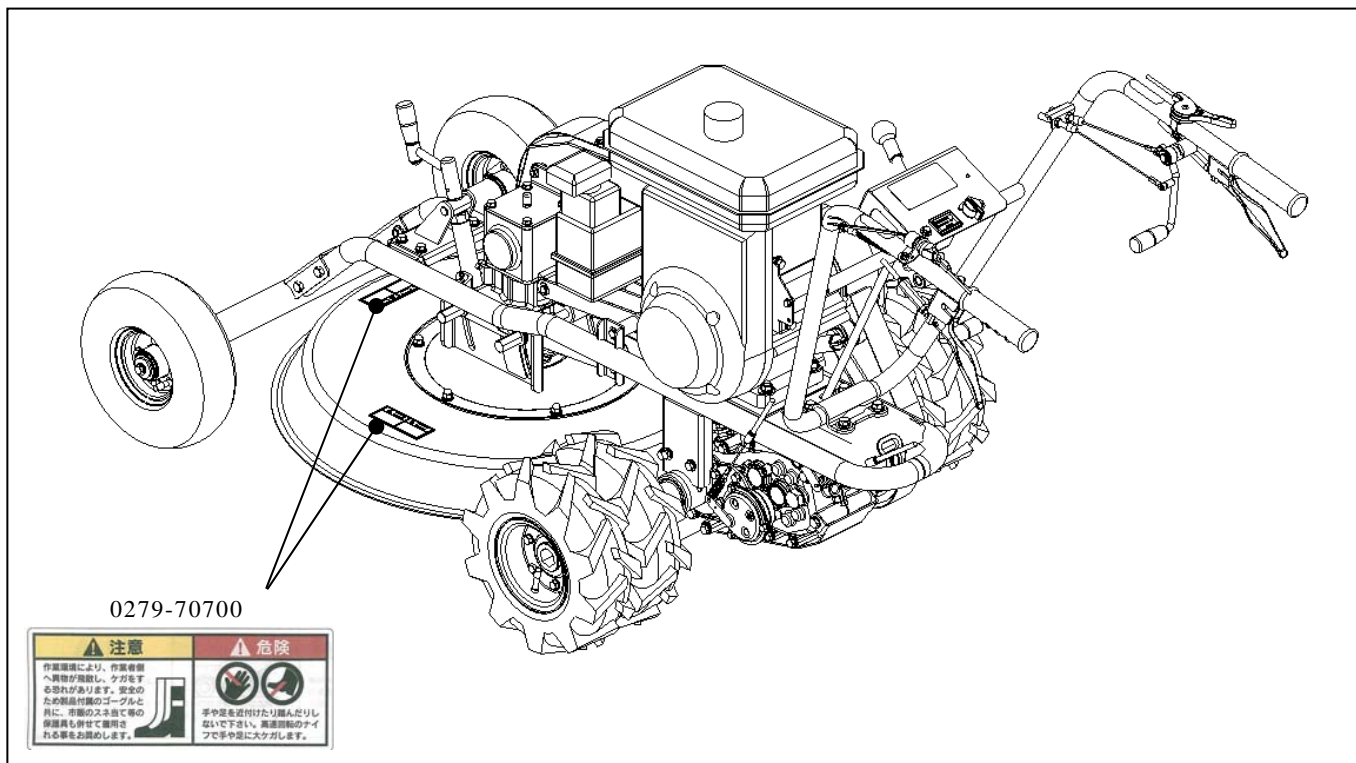
シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

- 以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。 〈28頁…消耗品明細 参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- 所有者以外の方は使用しないで下さい。
- 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

警告 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着と裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴、帽子又はヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

注意 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

警告 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- 必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

警告 ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかりと締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

警告 ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

警告 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物を立てた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では、安全のために通常よ

りも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

警告 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ナイフクラッチが「⑩」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤを調整して下さい。

注意 20°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

警告 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしたり、両方のサイドクラッチレバーを中途半端に握ったりすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

警告 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

警告 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

〈3〉燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

警告 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

〈4〉始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、ナイフクラッチを「⑩」位置にしてから始動して下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

〈5〉積み降ろし時の注意

〈14頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込み時は前進「①」位置で、降ろすときは後進「R」位置でどちらもゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

（６）作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

▲ 注意 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

- ・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

▲ 注意 刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。必要に応じてスネ当て等の保護具を着用下さい。

▲ 警告 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近づけないで下さい。

▲ 注意 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

▲ 警告 石等危険物の多い場所では、事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

- ・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて必要であれば修正・交換して下さい。

（７）作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

（８）点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

▲ 警告 ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。

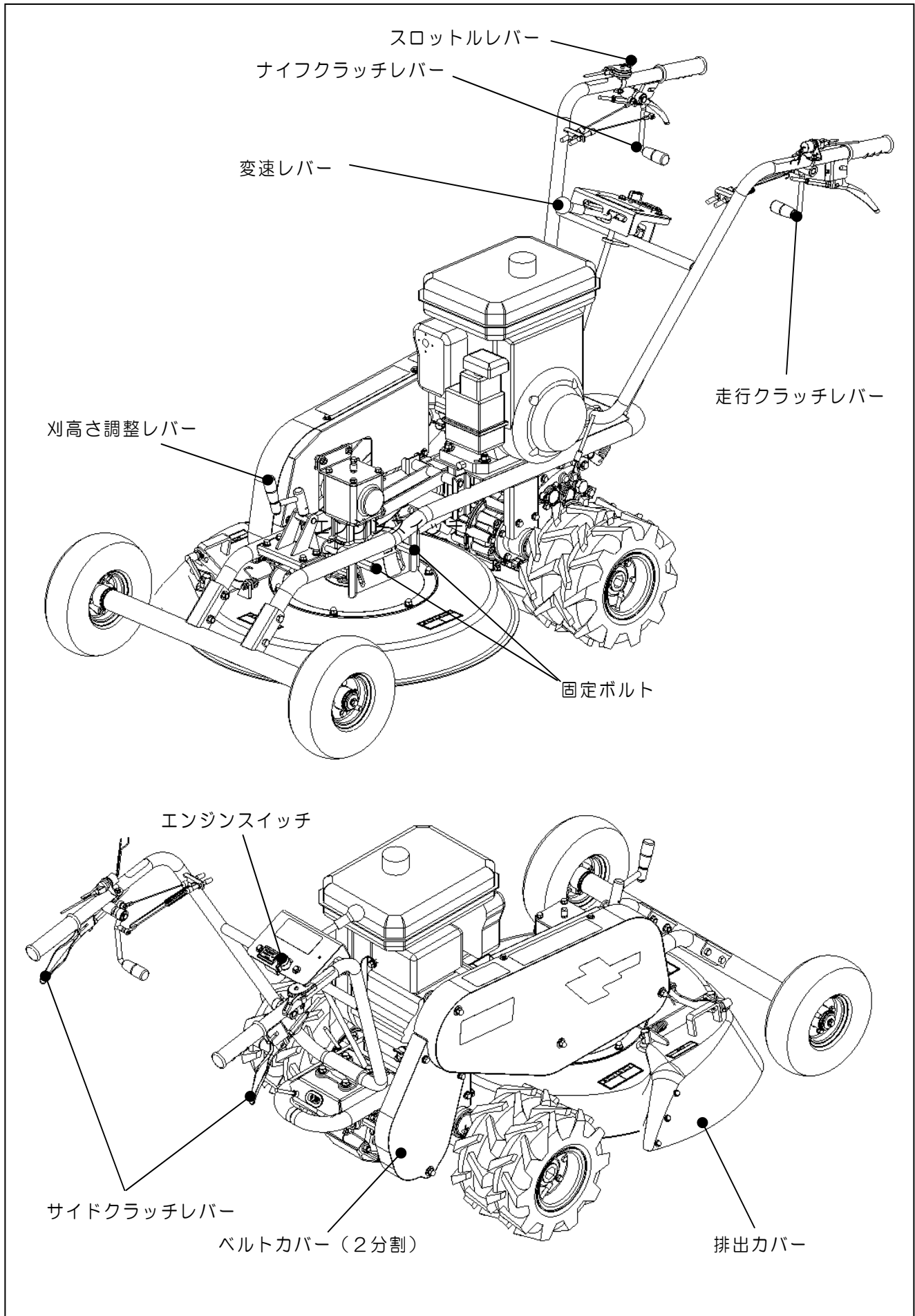
破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

▲ 注意 ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

- ・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
- ・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が１００時間に到達しない時点で交換して下さい。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを引き上げると「Ⓐ」位置の状態、下方に押すと「ⓐ」位置の状態になります。

「ⓐ」位置では同時に駐車ブレーキがかかり、本機は変速位置に関わらず停止します。

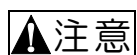
② ナイフクラッチレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。走行クラッチレバーと同様に、引き上げると「Ⓐ」の状態、下方に押すと「ⓐ」位置の状態になります。

「ⓐ」位置にするとブレーキがかかり、短時間でナイフは停止します。

参考：

ナイフは高速で回転する為、ナイフクラッチレバーを一気に「Ⓐ」位置にすると、エンストする場合があります。レバーの操作はゆっくりと行って下さい。



ナイフクラッチレバーを「Ⓐ」位置にするとナイフは高速で回転します。操作方法には十分注意してください。

③ サイドクラッチレバー

ミッションから車軸への動力を断続させます。サイドクラッチレバーを半分握ると握った側の車軸の動力が切れ、握りこむと車軸はロックします。



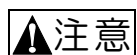
斜面での旋回作業時は必ず山側のサイドクラッチレバーを車軸がロックするまで握りこんでください。

中途半端に握ると車軸の動力が切れて本機を山側に向けた瞬間にそのまま谷底側下まで機械と一緒に滑り落ちる危険があります。

③ 変速レバー

走行速度の選択に操作します。それぞれの変速位置に中立「N」を挟み、前進が3段で、後進「R」が1段です。

前進は「①」→「②」→「③」の順で速度が速くなります。「③」速位置は移動用ですので、作業には使用出来ません。「③」速位置でナイフクラッチを「Ⓐ」位置にすると変速レバーが「②」位置に戻り、ナイフクラッチレバーを「Ⓐ」位置で変速レバーを「③」速位置にするとナイフクラッチレバーが「ⓐ」位置に戻る機構が付いています。



変速操作は必ず走行クラッチレバーを「ⓐ」位置にして、本機を停止させた後に行ってください。走行クラッチレバーを「Ⓐ」位置のまま変速の操作は危険であるばかりでなく、故障の原因にもなります。

警告

安全のため、変速レバーの操作は必ず平坦地で行い、特に傾斜地での作業中は絶対に変速レバーの操作は行わないで下さい。傾斜地で本機を山側に向けた位置で変速レバーの操作を行うと、急に“ギヤ”が抜けて中立「N」位置となり、そのまま谷側下まで機械と一緒に滑り落ちる危険があります。

④刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。右に回すと刈高さは高くなり、左に回すと低くなります。刈高さ調整を行うときはエンジンを停止して、全ての駆動部が停止したことを確認してから行ってください。

- (1) 固定ボルトを緩める。
- (2) 刈高調整レバーで所定の刈高さに調整する。
- (3) 固定ボルトを締める。

注意

固定ボルトを確実に締めたことを確認して作業してください。固定ボルトを確実に締めないと故障の原因になります。

参考：

刈高さを低くしすぎて作業を行うと様々な弊害の原因となります。凸凹が多い圃場では、凸の方に刈高さを合わせ、異物の噛み込みがないようにして下さい。

- (1) ナイフカバーから異物が飛散して危険。
- (2) ナイフカバー内に異物が堆積し、刈り取り性能が低下する。
- (3) ナイフ(刈刃)の摩耗が早くなる。
- (4) 本機に無理がかかり、ベルトの早期切断等、故障の原因となる。

⑤排出カバー

刈り取られた草屑のほとんどがここから排出されます。ナイフの研磨の際、作業がやり易い様、開閉式となっています。

警告

作業中は必ず閉じて下さい。開けた状態のまま作業を行うと、石等異物の飛散が多くなり、作業者のみならず周囲にも甚大な被害を及ぼす恐れがあります。

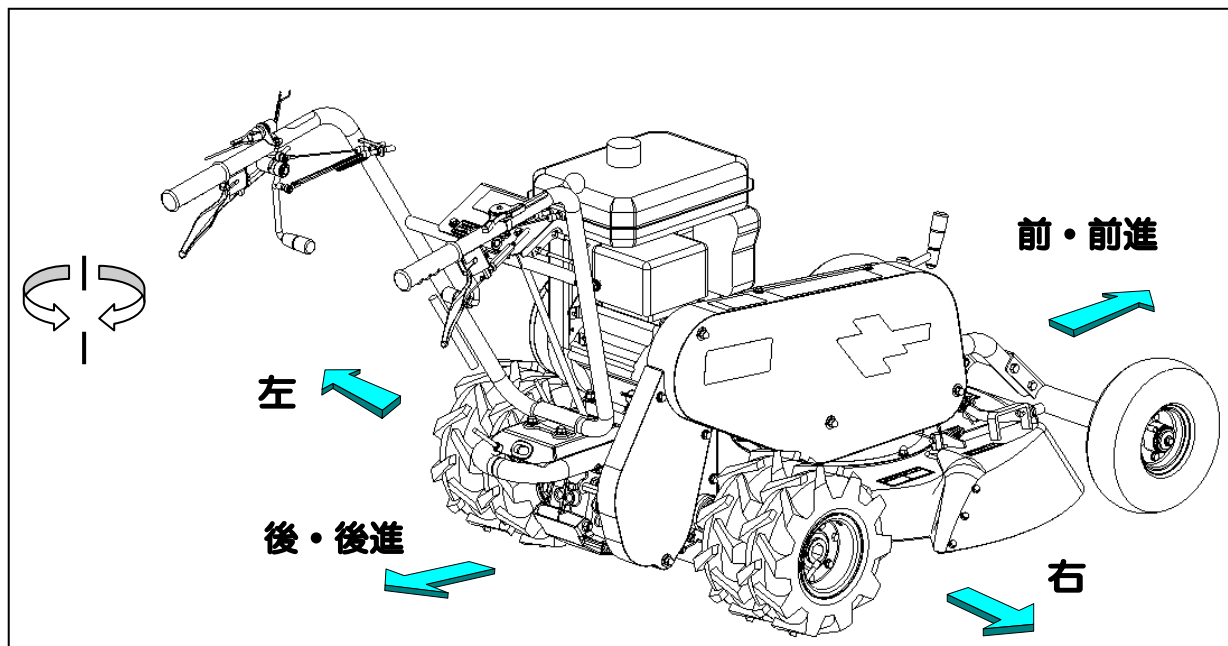
⑥エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入(ON)」、「切(OFF)」します。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈29頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

警告：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

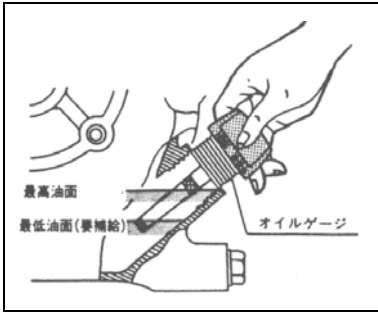
エンジンの始動・停止のしかた

危険

- (1) 締め切った室内でエンジンの始動及び暖機運転をしないで下さい。
… 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- (2) ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- (3) エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

注意

- ・ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。



■ エンジンオイルの補給と点検

- ① エンジンオイルを確認して下さい。
- ◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。
 オイルゲージの上と下の目盛線の間がオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。* エンジンによって注油方法が異なります。
 - エンジンは必ず水平（対地）状態にして下さい。そうしないと正しいオイル量が示されません。 -

参考：

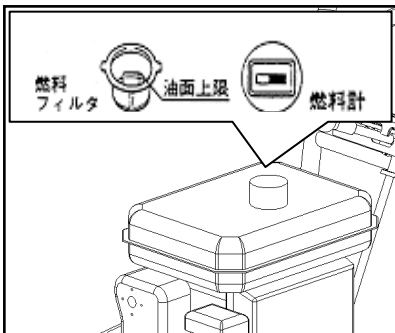
- エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- 使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（10℃以上）	SAE 30, SAE 10W-30, 又はSAE 40
冬季（10℃以下）	SAE 5W20, 又はSAE 10W-30

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラーが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。

■ 燃料の点検と補給

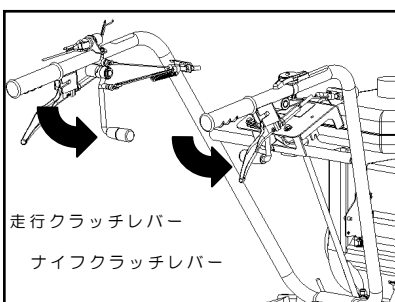


- ② 燃料を確認して下さい。
 燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。
 <燃料タンク容量は 27 頁…仕様参照>
- 燃料計のゲージが「E」に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。
- 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
- 傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。

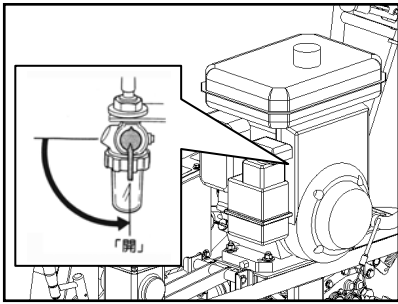
▲ 注意

- 燃料は常に新しいものを使用して下さい。古い燃料又は長期間(3ヶ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。

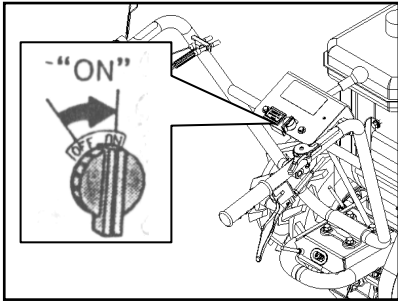
■ エンジン始動のしかた



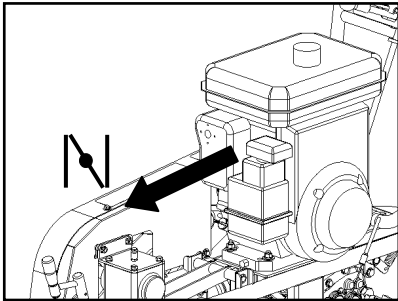
- ③ 走行クラッチレバー・ナイフクラッチレバーはいずれも「D」位置にして下さい。




④燃料コックを「開(ON)」位置にしてください。

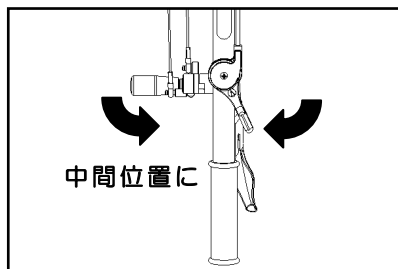




⑤エンジンスイッチを「入(ON)」位置にしてください。

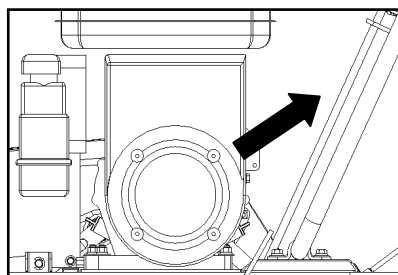


⑥チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にしてください。

参考；エンジンが暖まっている時は、チョークレバーの操作は必要ありません。

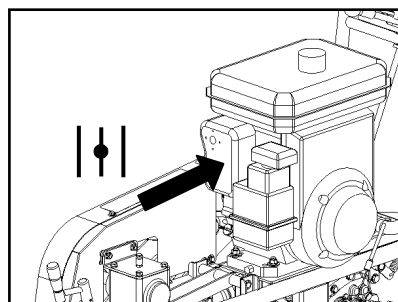




⑦スロットルレバーを「低」と「高」位置の中間位置にしてください。



⑧スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

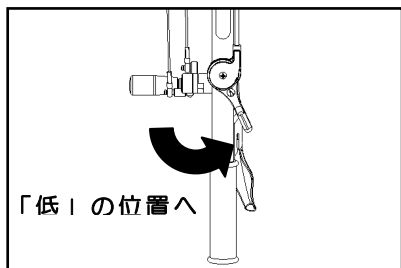
エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。



⑨エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「全開」位置にしてスロットルレバーを低速側「」位置でしばらく(5分程度)の暖機運転を行ってください。暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

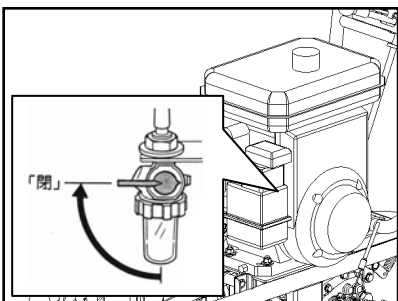
▲注意

- ・新製品購入後、最初の一週間(3~4時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけて下さい。
- ・チョークレバーを「全閉」のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。



■エンジン停止のしかた

- ⑩スロットルレバーを低速「」位置にし、エンジンスイッチを「停止(OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。



- ⑪最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

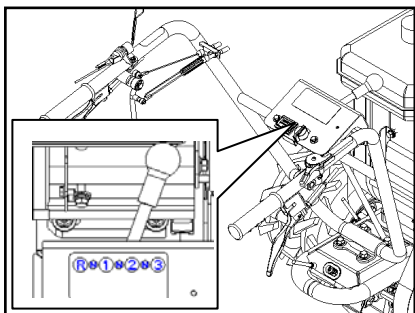
走行・旋回・変速・停止のしかた

▲注意

- 所有者以外の人には使用させないで下さい。
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・車輪接地面の勾配が 20° を越える傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用は避けて下さい。
- ・高速位置での移動中、いきなり走行クラッチを切ると、急ブレーキがかかり本機は急停止し危険です。スロットルレバーを「低」位置にして車速を落としてから停止するようにして下さい。

■走行のしかた

- ①エンジンを始動させて下さい。
〈10 頁エンジン始動のしかた 参照〉
- ②変速レバーを所要の位置に確実にシフトして下さい。

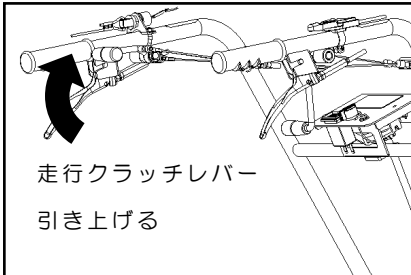


⚠注意

変速操作が不十分な場合、走行中にギヤ抜けの恐れがあり、大変危険です。

ギヤが入りにくい時には、無理に入れずに走行クラッチレバーを「㊶」方向に少し移動させるか本機を前後に振ってみて、再度確実に変速操作を行って下さい。

前進3速は移動用です。高速のため作業には使用出来ません。



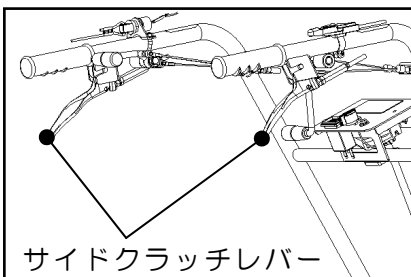
③スロットルレバーを「高」と「低」との中間位置にし、走行クラッチレバーを引き上げると走行します。

⚠警告

走行の際は、刈取部が石やその他の障害物に接触しない位置へ調整しておいて下さい。又、安全のため、ナイフクラッチレバーは「㊶」位置にしないで下さい。刈刃が高速で回転し危険です。

安全の為、スロットルレバーは「高」と「低」との中間位置で走行を始め徐々に全開に操作して下さい。移動用「③」速位置で全開位置からスタートすることは、機体が急発進し危険です。

■ 旋回のしかた

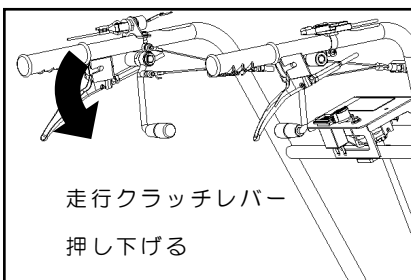


旋回する側のサイドクラッチレバーを握ります。レバーを握った方の後輪がロックされて旋回方向へ車体が旋回します。

参考；

旋回する場合には、前輪を少し浮かして旋回方向にハンドルを押し出すようにするとスムーズに旋回できます。

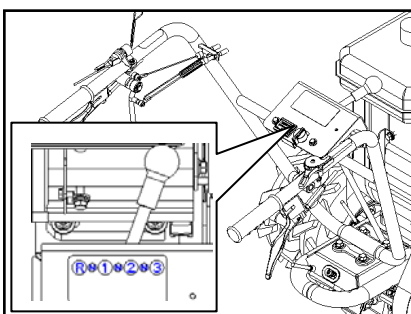
■ 変速のしかた



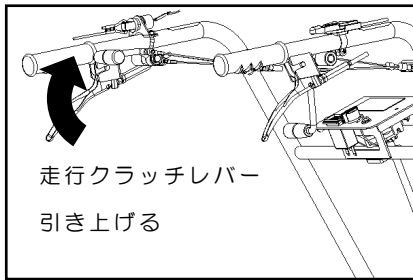
①走行クラッチレバーを押し下げて「㊶」位置にして下さい。

参考；

走行クラッチレバーが「㊶」位置のまま変速レバーの操作を繰り返す行なうと、故障の原因となります。

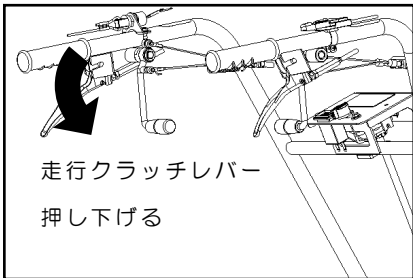


②変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ替えて下さい。



③ 走行クラッチレバー引き上げ、「㊸」位置にして再発進して下さい。

■ 停止のしかた



① 走行クラッチレバーを押し下げ、「㊸」位置にして本機を停止して下さい。同時に駐車ブレーキが掛かり機体が停止します。

② エンジンを停止して下さい。

〈12 頁エンジン停止のしかた 参照〉

▲ 注意

- ・ 本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。
- ・ 走行クラッチレバーが「㊸」位置では、変速レバーの位置に関わらず、駐車ブレーキが利いています。
- ・ 本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。
- ・ 両サイドクラッチを半分握るとエンジンを停止した状態で押して移動ができます。(走行、ナイフクラッチレバーは「㊸」位置)

トラックへの積み降ろしのしかた

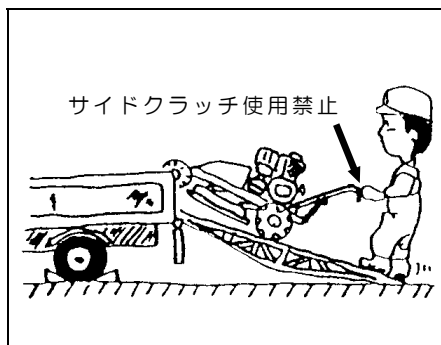
▲ 警告

- 運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には、刈高調整レバーで、ナイフがブリッジと接触しない位置まで調整しておいて下さい。
積み降ろしの際にナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ・ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・ 積み降ろし時に、ブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・ 積み降ろしは本機の車輪がそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
- ・ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・ トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

⚠危険

本機の移動時は、必要以上に本機を傾けないで下さい。燃料が漏れ出す恐れがあります。
万一、引火した場合には火災や死傷する恐れがあります。

■ 積み降ろしのしかた



- ①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ②基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③スロットルレバーは「高」と「低」の中間位置にして下さい。
- ④積み込みは前進「①」位置で、降ろす場合は「R」位置で行ない、その他の位置に変速しないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅…本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

⚠警告

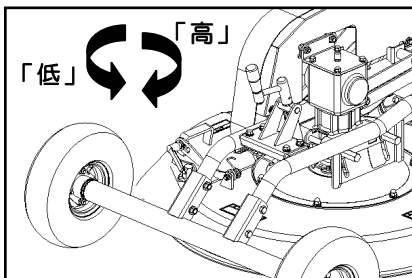
- 本機右側の排出カバーは必ず閉じて、又標準で装着されているカバー・フラップ類は必ず装着して作業を行って下さい。開けたまま或いは取り外したままの作業は、石等の異物が刈取部全周にわたり飛散し、作業者をはじめ周囲に被害を及ぼす危険があります。
- 傾斜地で両側のサイドクラッチレバーを同時に中途半端に握ると、本機が急に傾斜谷側に暴走し巻き込まれる危険があります。サイドクラッチレバーは必ず片側ずつ確実に操作して下さい。
- カバー及びフラップ類に変形又は破損がある場合には、必ず作業開始前までに修正、交換を済ませて下さい。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度 20°)のあるところ、地面の凸凹等、危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- 作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないよう、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- 本機装着のカバー類は、ナイフカバーからの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。作業前の圃場内異物の除去は、作業者の責任で確実に実施して下さい。

▲注意

- ・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴、帽子又はヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用して下さい。
- ・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いて下さい。
- ・石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等して、安全には十分注意して下さい。

参考:

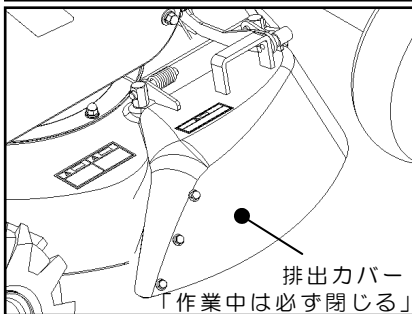
- 初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。
- 刈草は、本機右側の排出カバーから吐き出されます。障害物に対しては、常に本機を右側に位置させて下さい。



- ①作業状況に合わせて刈高調整レバーで刈高さを調整して下さい。固定ボルトは確実に締め付けてください。

参考:

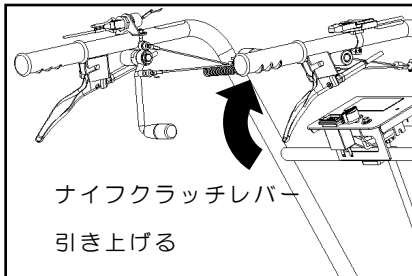
刈高さは、圃場内の凸部分に合わせて下さい。低すぎると異物及び土との摩擦により、ナイフが早期に摩耗もしくは破損するばかりでなく、これらの飛散による事故の危険があります。



- ②エンジンを始動させて下さい。

- ③変速レバーを「①」又は「②」作業位置にして下さい。

- ③スロットルレバーを「全開」位置にして下さい。



- ⑥ナイフクラッチレバーをゆっくりと「㊸」位置まで引き上げて下さい。

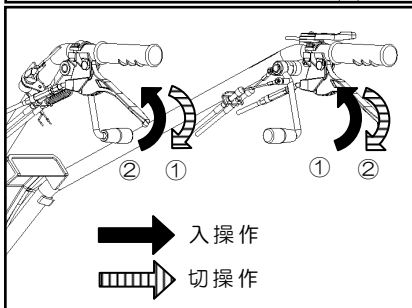
⚠ナイフが高速で回転しますので十分に注意して下さい

- ⑦続けて走行クラッチレバーを引き上げると発進し、作業を開始します。 <12頁走行のしかた 参照>

- ⑧作業を終了する場合には、まず走行クラッチレバーを押し下げて「㊸」位置にし、走行を停止させてください。

- ⑨続けてナイフクラッチレバーを「㊸」位置にして、ナイフの回転を停止させて下さい。

- ⑩ <12頁エンジン停止のしかた>を参照してエンジンを停止して下さい。



参考:

- ・ナイフクラッチレバーを「㊸」位置にすると、ブレーキがかかり、ナイフの回転は数秒(5秒以内)で停止します。

傾斜地での作業のしかた

- ・傾斜地での作業は、斜面の谷側から山側へ向かって等高線に沿って作業を行い、順次山側

へと移行して下さい。旋回はできるだけ両端の傾斜角度の緩い場所で、山側のサイドクラッチレバーを握り、山側に向かって旋回し、∞の字を描くようにして作業をして下さい。谷側のサイドクラッチを握って谷側へ旋回しようとする、そのまま谷側下まで機械と一緒に滑り落ちる恐れがあります。

- ・傾斜地での作業は、足場を確保するためにスパイク靴等を履き安全に十分注意して下さい。

▲警告

- ・変速の操作は必ず平地で行って下さい。傾斜地作業中の変速操作は旋回時のギヤ抜けの原因となり、転落事故の恐れがあります。
- ・エンジンに草、木の葉等を堆積させないで下さい。これらの物がエンジンの周辺に堆積するとオーバーヒートによる焼付きや火災の原因になったりします。又、刈取性能の低下及び燃料消費量のアップの原因にもなります。こまめに清掃して下さい。
- ・安全のため、最初は「①」位置からスタートし、周囲の安全を確かめた上で作業条件に合った作業速度にして下さい。
- ・ナイフの回転中はナイフカバー内側いっぱいまでナイフがきますので、絶対に草等をナイフカバー内に足等で蹴り入れない様にして下さい。
- ・作業中障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止する為点火キャップを点火プラグから外したうえで損傷を調べてください。異常はすぐに修理して下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

参考：

- ・草の量が多く、頻繁にエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落とすか、刈高さを高くするか、二回刈りをして下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲注意

- ・ご使用前には必ず指定のオイルが指定の量だけ注油されているか確認して下さい。
- ・定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約5分以上）待ってから作業を行って下さい。

… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …

* エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

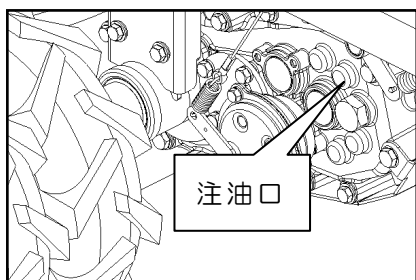
* エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■交換後の廃油は適切な処理をして下さい■

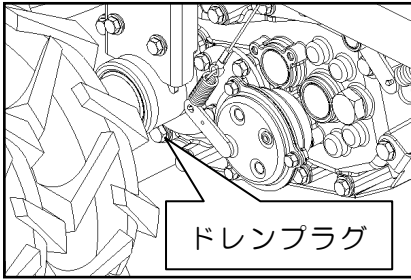
ミッションオイルの点検・補給・交換

※注油は少しずつおこなって下さい。一度に注油しようとする、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。注油口まで油面がきていることを確認して下さい。

◎ 点検・補給…注油量を厳守下さい。



- ① ミッションケース左側面上部の注油栓（ボルト 26m/m）をスパナを使って取外して下さい。注油口から油面が目視で確認できればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。
- ② オイルの量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）して下さい。



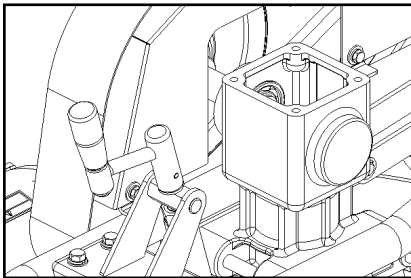
◎ 交 換…

- ③オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ④ミッションケース左側面下部(車軸下部)のドレンプラグ(排油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。
- ⑤ドレンプラグを確実に取り付けした後、ミッションオイル(#90)を1.6ℓ注油して下さい。

参考：

注油栓ネジ部にはOリングが取り付けられています。紛失しないよう注意して下さい。

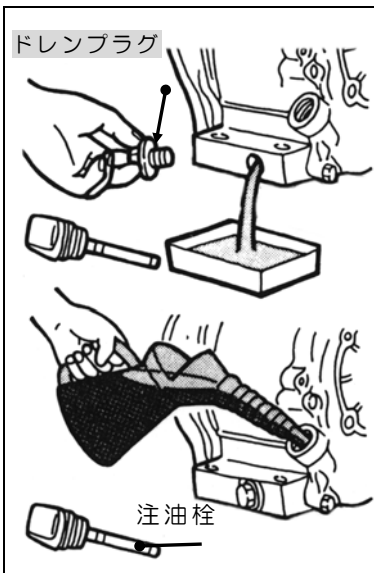
ナイフギヤボックスグリスの交換



- ①ナイフギヤボックスの蓋を開けて古くなったギヤグリスを取り除いてください。
- ②ギヤグリス#00 番相当品(140~150 ℓ)を入れてください。

初回：20時間目、2回目以降：100時間毎

エンジンオイルの点検・補給・交換



◎ 点検・補給…

- ①毎運転前に〈10頁…エンジンオイルの補給と点検〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は 全量交換(下記参照)して下さい。
(使用するエンジンオイルの質及び量は10頁参照)

◎ 交 換…

- ①廃油受け容器をエンジンドレンプラグ(排油栓)下に入れ、ドレンプラグを取り外してエンジンオイルを容器内に排出して下さい。
- ②排出後はドレンプラグを元通りに締め付け、新しい指定のエンジンオイルを規定量まで給油して下さい。
(〈10頁…エンジンオイルの補給と点検 参照〉)

参考：

- ・排油の際には、同時に給油栓も取り外しておくこと、オイルが抜き取りやすくなります。
- ・エンジンオイル給油時は、エンジン本体を水平にしないと規定量のオイルが給油できません。(〈10頁…エンジンオイルの補給と点検 参照〉)

初回：5時間目、2回目以降：25時間毎

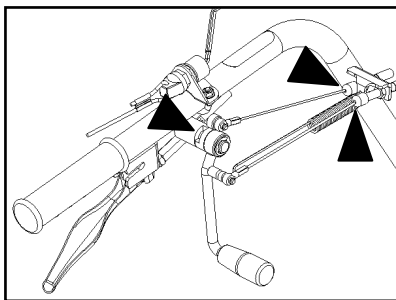
■但し、高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行して下さい。

■交換後は取り外したカバー、給油栓は確実に取り付けて下さい。

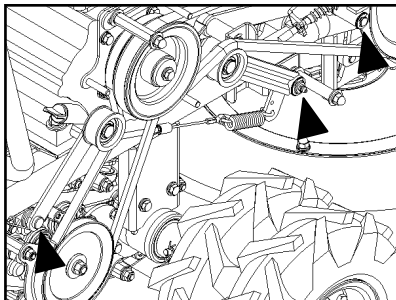
可動部への注油のしかた

◎ 約25時間毎にグリスニップル部にはグリスを、又その他の部分には必要に応じてエンジンオイル(#30)を注油して下さい。特にグリスの注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。

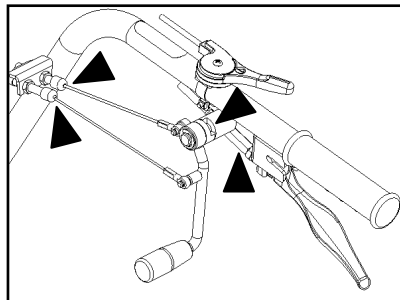
各ワイヤ・走行レバー軸部



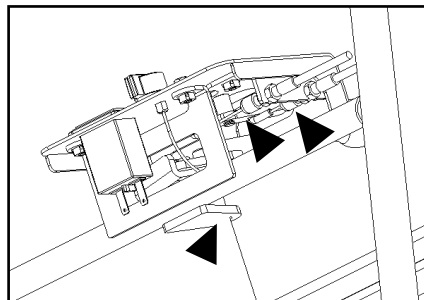
テンション軸・ブレーキ軸部



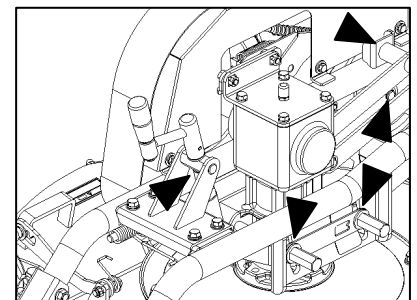
各ワイヤ・ナイフレバー軸部



各ワイヤ・軸部



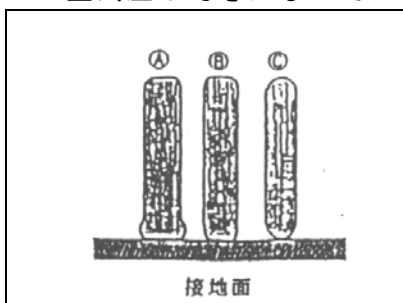
刈高さ調整レバー・リンク軸部



《各部の点検・整備・調整のしかた》

タイヤ空気圧の調整のしかた

●タイヤの空気圧を、1.2Kg/cm²に調整して下さい。
空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。



●外観から判断する目安は左図の通りです。

A：不足

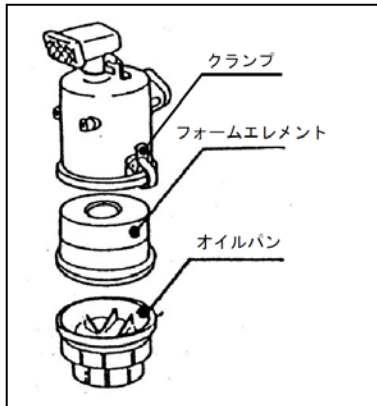
C：過剰

B：適正

エアクリーナの清掃のしかた

▲危険

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやほこりを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。…



- ① クランプを外し、オイルパンを外して下さい。
- ② オイルパン内の泥、草屑等を灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)をレベル線まで入れて下さい。
- ③ フォームエレメントは、白灯油（又は中性洗剤）で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。
- ④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおり組み付けて下さい。

▲注意

- ・洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

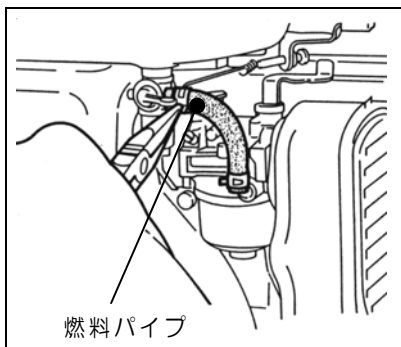
	清掃	交換
フォームエレメント …	毎運転毎	100 時間毎
エアクリーナオイル …		50 時間毎

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた

▲危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止



- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

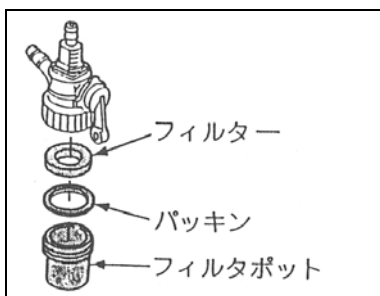
参考；

パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタポットの清掃のしかた

▲危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

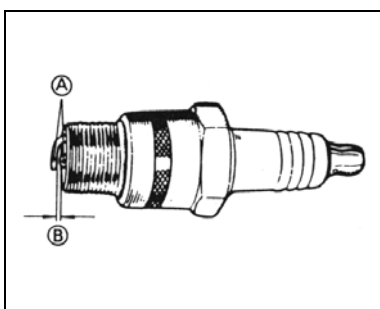


- 50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- 作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
 - ① 燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。
 - ② 燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させて下さい。

▲警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Aにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間Bを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考：

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

〈点火プラグ基準…27 頁仕様参照〉

《そのほかの点検》

- ① 各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
- ② Vベルト・ワイヤは初期伸びしますので、2～3 時間運転後に再調整して下さい。
- ③ 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④ 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3 時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤ 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。

〈29 頁…定期自主点検表 参照〉

- ⑥ 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ⑦ 本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。
 - もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
 - オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

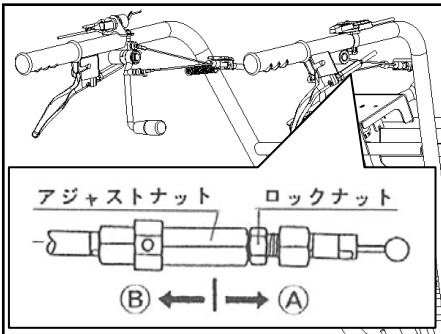
各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

※ワイヤ・ベルトは使用すると伸びるので調整が必要です。

警告

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

■ サイドクラッチワイヤ調整



左図を参考にサイドクラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

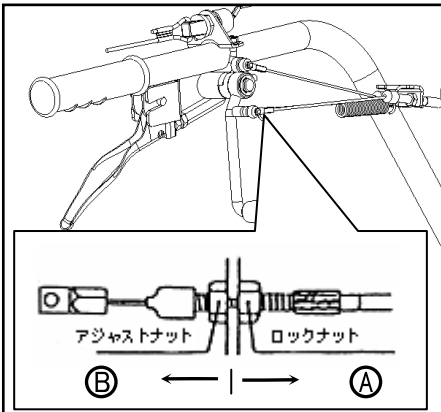
□ サイドクラッチレバーを離しても負荷がかかるとサイドクラッチが抜ける場合。

… アジャストナットを**(A)**の方向へ …

□ サイドクラッチレバーを握ってもサイドクラッチが抜けない場合。

… アジャストナットを**(B)**の方向へ …

■ 走行クラッチワイヤ調整



左図を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

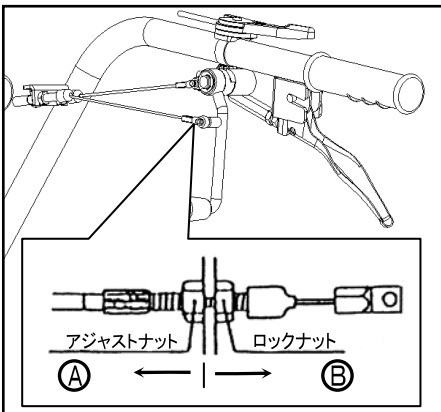
□ 走行クラッチを入れても負荷がかかると本機が停止する場合。

… アジャストナットを**(B)**の方向へ …

□ 走行クラッチレバーを切っても本機が停止しにくい場合。

… アジャストナットを**(A)**の方向へ …

■ ナイフクラッチワイヤ調整



左図を参考にナイフクラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

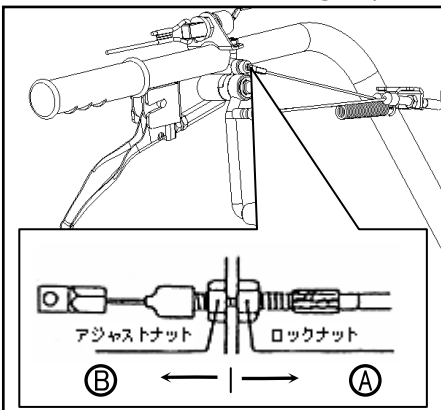
□ ナイフクラッチレバーを入れても負荷がかかるとナイフの回転が停止する場合

… アジャストナットを**(B)**の方向へ …

□ ナイフクラッチレバーを切ってもナイフの回転が停止しない場合。

… アジャストナットを**(A)**の方向へ …

■ 駐車ブレーキワイヤ調整



左図を参考に駐車ブレーキワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□ 走行クラッチレバーを切っても駐車ブレーキの効きが甘い場合。

… アジャストナットを**(B)**の方向へ …

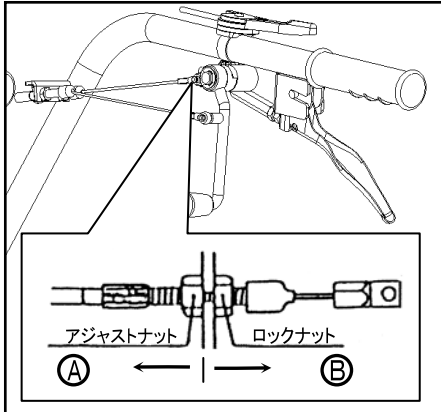
□ 走行クラッチレバーを入れても駐車ブレーキを引きずる（解除されない）場合。

… アジャストナットを**(A)**の方向へ …

▲注意

- ・駐車ブレーキ調整は、念入りに行ってください。調整が甘いと非常時等で傾斜地に駐車した場合に本機が動き出す恐れがあります。逆に駐車ブレーキの効きが強いと走行中もブレーキを引きずり、異音の発生又は故障の原因となります。

■ ナイフブレーキ・キャンセラーワイヤ調整



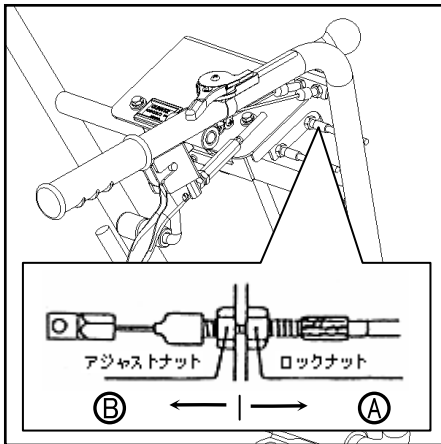
左図を参考にキャンセラーワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

- 「③」速位置でナイフクラッチレバーを入れてもチェンジレバーが「②」速位置に戻らない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ナイフクラッチレバー「Ⓒ」位置でチェンジレバーが「③」速位置に入らない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…



左図を参考にナイフブレーキワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

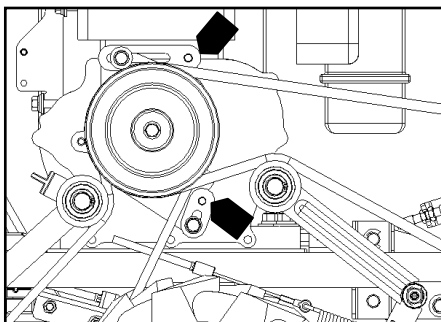
- ナイフクラッチレバーを切ってもナイフの回転が約5秒以内で停止しない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

- ナイフクラッチレバーを入れてもナイフブレーキを引きずる（解除されない）場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

■ 走行・ナイフベルト押さえの調整



● ベルト押さえの調整は、本機ベルトカバーを取り外して行って下さい。

- ① エンジンベルト押さえの調整は、走行・ナイフベルトを張った状態で行います。この状態で、ベルトとベルト押さえの間が上側で2～3mm程度、下側で5～6mmとなるようにベルト押さえの位置を調整して下さい。

- ② ベルト押さえの位置は、エンジンプーリの約1/3の所が基本です。

- ③ 調整の目安としては、走行及びナイフクラッチレバーが「Ⓒ」位置の時、ベルト押さえがベルトを軽く押さえ、ベルトがプーリの溝から軽く浮き上がる程度とします。

参考：

- ・調整後はロックナットを確実に締め付けておいて下さい。
- ・調整のために取り外したカバー類は必ず元のとおりに取り付けて下さい。
- ・調整後は、両クラッチレバーの「㊟」・「㊞」の動作確認を必ず行って下さい。
- ・ベルトは初期のびが多少あります。新品より2～3時間運転後、再度調整して下さい。
- ・ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換して下さい。初回 20 時間目、以降 100 時間毎に調整します。ベルトサイズは 27 頁《仕様》参照。

《ナイフの点検・交換のしかた》

ナイフの点検・交換

■作業を安全に行うため、エンジンを停止した後にナイフの作業前点検を行って下さい■

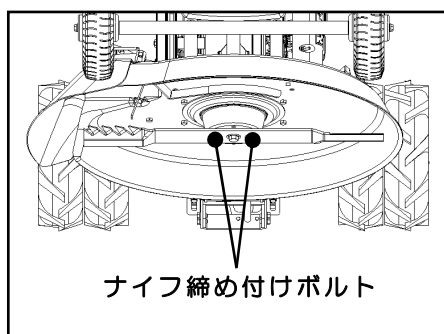
▲警告

- ・ナイフを交換する際には必ず、メーカー純正品とご指定下さい。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。
- ・前回作業時に、縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。ナイフの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、作業中ナイフが折損して破片が飛び出し、作業中や付近に居る人に当たったり、振動による故障の原因となります。
- ・この作業は必ず二人で行い、作業中刈取部が落下しないようハンドルをしっかりと支えながら行って下さい。
- ・点検・交換は刃先にウエスを巻く等し、丈夫な手袋（皮手袋等）をつけてケガには十分注意して下さい。

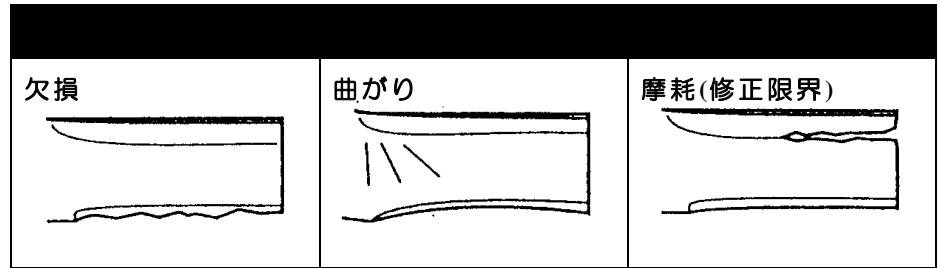
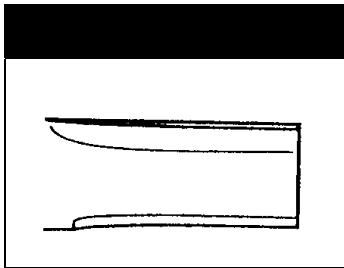
▲注意

- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルトも摩耗します。ナイフ交換の際にはナイフ締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルト、ナットで代用しないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らして怪我をしないように十分注意して下さい。
- ・本機を長時間傾斜させたまま放置しないで下さい。始動性が悪くなる場合があります。
- ・ナイフは、2個のナイフ締め付けボルト(メック加工)で固定されています。

■ナイフの点検・交換のしかた



- ①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。〈12 頁…エンジン停止のしかた 参照〉
- ②もう一人の人に本機のハンドルを押し下げてもらい、刈取部を上げて作業中保持してもらって下さい。
- ③ナイフの割れ、曲がり、摩耗を点検して下さい。
- ④ナイフ締め付けボルトの取付け状態を点検して下さい。下図の様に異常な状態になっていたら交換して下さい。



参考：

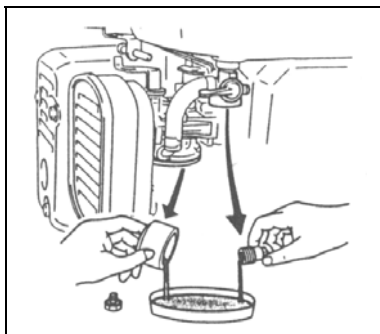
- 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻りに点検して下さい。
- 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

《長期保管のしかた》



■エンジンを停止して下さい。〈12 頁…エンジン停止のしかた 参照〉

- 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火照明等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- 本機は、固い平坦な場所で水平にして保管して下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからして下さい。



- ①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取って下さい。
 - 燃料タンク内の燃料は、燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開(ON)」位置にして抜き取って下さい。
 - 気化器内の燃料は下部のフロート室締め付けボルトを外して抜いて下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈18 頁…エンジンオイル交換 参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因にもなりかねません。

参考：

ナイフカバー内に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。…

- ⑤各給脂・注油箇所それぞれ注油をして、不具合箇所は修理しておいて下さい。
- ⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。
- ⑦本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。
(*本機カバーは付属していません。)

《仕 様》 (参考数値)

名 称		ロータリーモアー
型 式		GR638
全長×全幅×全高(mm)		1,860×850×925
刈 幅(mm)		630(平面作業時)
重 量(kg)		129
刈 高(mm)		20~80
ナイフ(枚)		アリゲータナイフ×1
ベルト(本)	走 行	LA36×1本
	刈 取	LB-57SG1000×1本
タイヤサイズ(本)		前輪：350-4 後輪：350-5
操行装置		サイドクラッチ (ロック付)
速 度 (km/m)	前 進	① 2.5 ② 4.2 ③ 6.8 (直進時)
	後 進	1.9
クラッチ 方式	走 行	ブレーキ連動ベルトテンション
	刈 取	ブレーキ連動ベルトテンション
能 率(a/h)		①15.8 ②26.5 (直線刈時)
ミッションオイル(ℓ)		1.6(#90)
エ ン ジ ン	名 称	ロビン
	型 式	EH25-2D
	排気量(cc)	251
	潤滑油量(ℓ)	1.0
	最大出力(KW/RPM)	5.9/3,600
	始動方式	リコイル式
	点火プラグ	NGK B6HS
	タンク容量(ℓ)	6.0

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	エンジン工具	エンジン付属	1	
4.	両口スパナ	10×12	1	
	〃	14×17	1	
	片口メガネ	17	1	
5.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	ナイフ	0234-51120	1	
2.	走行ベルト	89-6122-003600	1	LA-36
3.	ナイフベルト	89-6123-005703	1	LB-57SG1000
4.	ナイフクラッチワイヤ	0267-70100	1	
5.	走行クラッチワイヤ	0267-70200	1	
6.	ナイフブレーキワイヤ	0267-70300	1	
7.	駐車ブレーキワイヤ	0267-70400	1	
8.	サイドクラッチワイヤ	0267-70500	2	
9.	キャンセルワイヤ	0267-71700	1	
10.	ナイフ締付けボルト(8T)	0223-71300	2	M12×25P/1.25(メック)
11.	バネ座金φ12	89-1750-120002	2	
12.	危険ラベル	0279-70700	3	手や足を…
13.	注意ラベル	0279-70800	1	このカバーなしの…
14.	警告ラベル	0234-75600	1	安全の為…
15.	エアクリーナメンテ警告ラベル	0286-72800	1	エアクリーナー、…
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。	○	○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		*⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○
		*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
		③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○
	電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○
		②マフラーへの草屑等の堆積。	マフラー周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○
伝達装置	ベルト	①弛み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
②油量、汚れ。 ③油漏れ。		オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。 オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○	
車体	車体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ビンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
	表示マーク	損傷	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○
走行装置	タイヤ（ホイール）	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
作業装置	ナイフ	①ナイフの損傷、バランス	亀裂、変形、損傷はないか、又、左右のバランスに異常はないか	○	○	○
		②ナイフ取付ボルトの緩み	ボルトの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		③ナイフギアボックスのグリス	グリス量は適切化、又、著しい汚れはないか			○
		④ナイフカバー、排出カバー	亀裂、変形、腐食はないか。	○	○	○
制動装置	制動装置	①駐車ブレーキ	制動力は十分か、又、引きずりはないか	○	○	○
		②ナイフブレーキ	制動力は十分か、又、引きずりはないか	○	○	○
	操行装置	③サイドクラッチ	作動に異常ないか	○	○	○
		④変速レバー・キャンセル	作動に異常ないか、又、変速位置は正しいか	○	○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》





もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
刈草がうまく放出しない。	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈する。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。
	ナイフの摩耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内への草屑の堆積。	ナイフカバー内面を清掃する。
	草が長い。	二度刈りをする。
土削りを発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈りパターン(刈取方向)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲がり。	新しいナイフと交換する。
ナイフがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ナイフカバー内に異物が詰まっている。	ナイフカバー内を清掃する。
	プーリへの草の堆積。	プーリをきれいに清掃する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
変速しない。	変速の位置がズれている。	変速ワイヤの調整
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
振動が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	ナイフを修正する。(全ナイフ)
	ナイフの損傷。	新しいナイフと交換するか、修正する。
	ナイフネックガード内への草の堆積。損傷。	ナイフネックガードを清掃、交換する。
	ナイフ軸が曲がっている。	ナイフ軸を交換する。
	ベルトの破損。	新しいベルトに交換する。
刈り取り作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフの回転軸周りに草が堆積、又は巻きついている。	ナイフをきれいに清掃する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二回刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
タイヤがスリップする。	ナイフ及びナイフカバー内への異物の堆積。	ナイフ及びナイフカバー内を清掃する。
	圃場が軟弱である。	圃場が乾くまで作業を中断する。
ボンネットが外れ(付か)ない	ナイフカバーの高さがあっていない。	ナイフカバーの高さを調整する。
廃油受け容器が入らない	ナイフカバーの高さが高い。	ナイフカバー位置を低くする。
エンジンオイルが規定量入らない。又は排出されない。	エンジンが水平でない。	エンジンを水平にする。
ナイフがすぐに止まらない又はブレーキを引きする。	ナイフブレーキの調整不良。	ナイフブレーキワイヤを調整する。
傾斜地に駐車すると「N」位置で動き出す。又は引きする。	駐車ブレーキの調整不良。	駐車ブレーキワイヤを調整する。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。